

## こたつの事故の防止について（注意喚起）

NITE製品安全センターに通知された製品事故情報のうち、「こたつ」（※1）による事故は、平成17年度から平成21年度の5年間に179件ありました。（※2）

被害の状況は、死亡事故が22件、重傷事故が3件、「一室以上の火災」が85件でした。死亡者は27人で、60歳代以上が19人と70%を占めています。

「こたつ」の事故で、「製品に起因しない事故」が59件（33%）あり、事故の現象としては、「ヒーター部分に可燃物が近接したことにより焦げた、発火した」が25件（44%）、「屈曲、荷重などの負荷でコードがショートし発火した」が14件（25%）ありました。

なお、死亡・重傷事故は、全て「製品に起因しない事故」か「原因不明のもの」でした。

また、「製品に起因する事故」が42件（23%）あり、社告が出ているものも20件含まれています。これらはすべて「電気こたつ」及び「こたつ用コード」でした。

「こたつ」による事故は、誤った取り扱いや不注意によると考えられる事故が1月～2月に最も多く発生することから、消費者に事故の内容を理解していただき、正しい使用によって事故を防止するため、注意喚起をすることとしました。

（※1）こたつ：電気こたつ、こたつ用コード、豆炭こたつ、練炭こたつ、木炭こたつなど

（※2）平成17年度～平成21年度に事故が発生した件数、平成22年12月1日現在、重複、対象外情報を除いた件数

### 1. 「こたつ」による事故について

#### (1) 事故の月別件数について

NITE製品安全センターに通知された製品事故情報のうち、「こたつ」による事故は平成17年度から平成21年度の5年間に179件ありました。このうち「製品に起因しない事故」が59件（33%）あり、月別件数で見ると、図1に示すとおり、11月から起こり始め、1月～2月に最も多くなります。

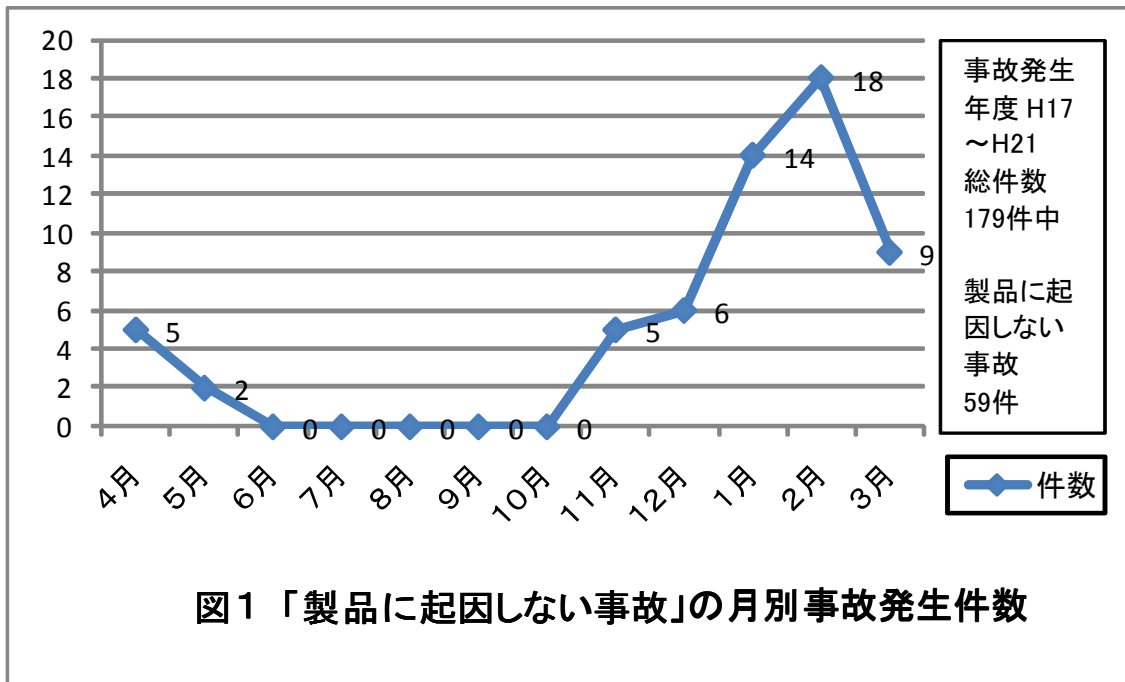


図1 「製品に起因しない事故」の月別事故発生件数

(2) 被害状況別の事故件数について

「こたつ」の事故179件のうち、人的被害に至ったものは54件で、死亡事故が22件、重傷事故が3件、軽傷事故が29件でした。

事故179件を年度別にまとめると、図2及び表1のとおりです。  
このうち、「一室以上の火災」は、85件ありました。

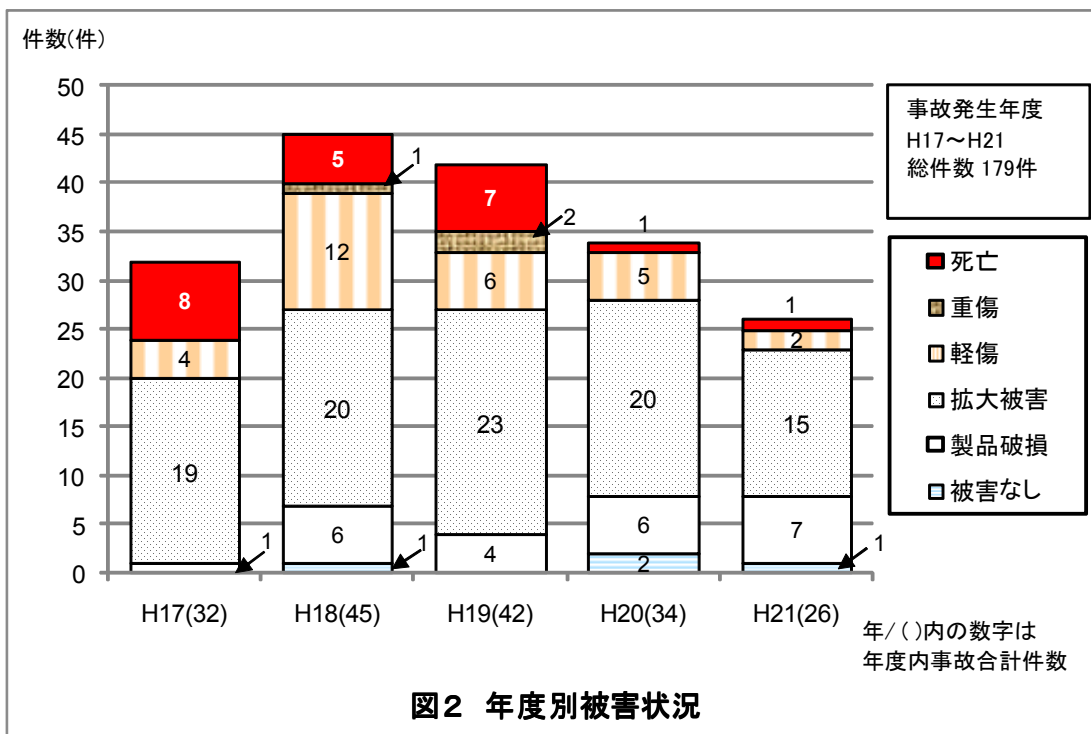


図2 年度別被害状況

表1 「こたつ」の発生年度別被害状況

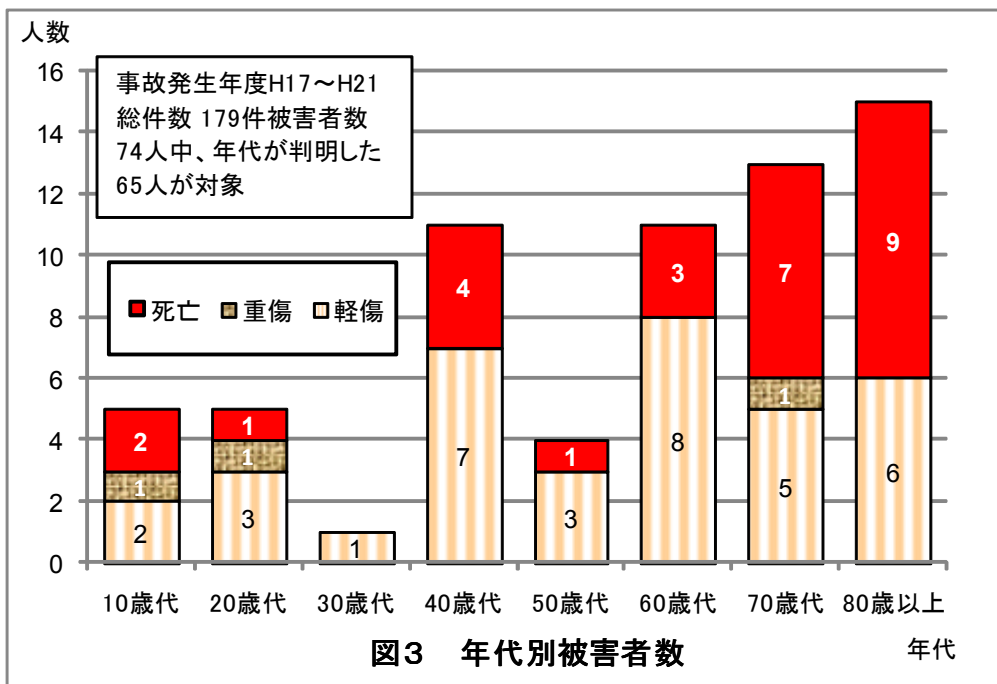
	H17	H18	H19	H20	H21	総計
死亡	8	5	7	1	1	22
重傷	0	1	2	0	0	3
軽傷	4	12	6	5	2	29
拡大被害	19	20	23	20	15	97
製品破損	1	6	4	6	7	24
被害なし	0	1	0	2	1	4
総計	32	45	42	34	26	179
一室以上の火災	27	30	18	7	3	85

(3) 年代別の被害状況について

179件の事故のうち、死亡事故は22件でした。年代が判明している被害者数は65人であり、死亡者27人、重傷者3人及び軽傷者35人でした。被害者数について年代別にまとめ、図3に示します。

死亡者が最も多いのは、80歳以上が9人、次に70歳代が7人でした。

死亡者数を60歳代以上でみると、27人中19人となり、70%を占めています。



(4) 「製品に起因しない事故」及び「原因不明のもの」について

「こたつ」の事故179件のうち、「製品に起因しない事故」（「専ら誤使用や不注意な使い方と考えられるもの」及び「その他製品に起因しないか、又は使用者の感受性に関係すると考えられるもの」を含む。）が59件（33%）ありました。

表2に「こたつ」の「製品に起因しない事故」の現象別被害状況を示します。

事故の現象別には、「ヒーター一部分に可燃物が近接したことにより焦げた、発火した」が25件（44%）、「屈曲、荷重などの負荷でコードがショートし発火した」が14件（25%）などがありました。

被害状況は59件のうち、「死亡」が7件（12%）、「重傷」が1件（2%）、「一室以上の火災」が35件（59%）でした。

表2 「製品に起因しない事故」の現象別被害状況  
（平成17年度から21年度）（※3）

被害状況 事故の現象	人的被害			物的被害		被害無し	合計
	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
ヒーター一部分に可燃物が近接したことにより焦げた、発火した	3 (3) [2]	0	1 (1) [1]	19 [8]	1	1	25 (4) [11]
屈曲、荷重などの負荷でコードがショートし発火した	0	0	7 (9) [5]	7 [4]	0	0	14 (9) [9]
故障のまま使用したことによりヒーターが過熱し発火した	0	0	1 (1)	3 [3]	0	0	4 (1) [3]
使用者の改造、修理間違いによりヒーターが過熱し発火した	1 (1) [1]	0	0	2 [1]	0	0	3 (1) [2]
豆炭、練炭の灰の不始末で発火した	1 (2) [1]	0	0 (1)	1 [1]	0	0	2 (3) [2]
ヒーター一部分の誤った使用により発火した	1 (1) [1]	0	0	1 [1]	0	0	2 (1) [2]
練炭の輻射熱で過熱し発火した	0	0	1 (1) [1]	1 [1]	0	0	2 (1) [2]
その他（※4）	1 (1) [1]	1 (1)	0	4 [3]	1	0	7 (2) [4]
合計	7 (8) [6]	1 (1)	10 (13) [7]	38 [22]	2	1	59 (22) [35]

（※3）平成22年12月1日現在、重複、対象外情報を除いた件数。被害状況別で「死亡」、「重傷」、「軽傷」と同時に「拡大被害」や「製品破損」が発生している場合は、「拡大被害」や「製品破損」にはカウントせず。また、（ ）の数字は被害者の人数、[ ]の数字は一室以上の火災に至ったものの件数。

なお、1件の事故で複数の程度の異なる人的被害が発生した事例がある。

（※4）その他：「コードのスイッチ部の接触不良により溶融した、焦げた、発煙した、発火した」、「こたつ布団がめくれてヒーターが過熱し焦げた」、「使用者の改造、修理間違いによりコードがショートし発火した」、「ヒーター一部分に長時間近接したことで低温やけどをした」、「ヒーター一部分が落下しやけどをした、焦げた、発火した」、「ヒーター一部分の火の粉が可燃物につき発火した」、「調査不能」

事故179件のうち、「原因不明のもの」が重大製品事故（死亡事故1件、軽傷事故1件、拡大被害事故3件）を含め63件（35%）ありました。

表3に「こたつ」の「原因不明のもの」の現象別被害状況を示します。

事故の現象別には、「コードがショートし発火した」が12件（19%）、「ヒーター部分に可燃物が近接したことにより焦げた、発火した」が6件（10%）などがありました。

被害状況は63件のうち、「死亡」が15件（24%）、「重傷」が2件（3%）、「一室以上の火災」が42件（67%）でした。

表3 「原因不明のもの」の現象別被害状況  
(平成17年度から21年度)(※3)

被害状況 事故の現象	人的被害			物的被害		被害無し	合計
	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
コードがショートし発火した (※5)	5 (7) [5]	0	1 (1)	6 [2]	0	0	12 (8) [7]
ヒーター部分に可燃物が近接したことにより焦げた、発火した (※5)	2 (3) [2]	1 (1) [1]	1 (4) [1]	2 [2]	0	0	6 (8) [6]
コードのスイッチ部が溶融した、焦げた、発煙した、発火した (※5)	0	0	0	3 [1]	1	0	4 [1]
プラグとコンセントの間で発火した (※5)	0	0	0	2 [1]	0	0	2 [1]
やぐらが破損した (※5)	0	0	0	0	2	0	2
その他(※6)	1 (2) [1]	0	1 (3) [1]	3 [1]	1	0	6 (5) [3]
現象不明	7 (7) [6]	1 (1) [1]	7 (11) [5]	14 [11]	0	0	29 (19) [23]
調査不能	0	0	1 (4) [1]	0	1	0	2 (4) [1]
合計	15 (19) [14]	2 (2) [2]	11 (23) [8]	30 [18]	5	0	63 (44) [42]

(※3) 平成22年12月1日現在、重複、対象外情報を除いた件数。被害状況別で「死亡」、「重傷」、「軽傷」と同時に「拡大被害」や「製品破損」が発生している場合は、「拡大被害」や「製品破損」にはカウントせず。また、( )の数字は被害者の人数、[ ]の数字は一室以上の火災に至ったものの件数。

なお、1件の事故で複数の程度の異なる人的被害が発生した事例がある。

(※5) 事故の現象は明らかであるが、詳細が不明なため原因不明としている。

(※6) その他：「プラグの修理間違いにより断線し発火した」、「故障のまま使用したことにより発火した」、「使用者の改造、修理間違いにより発火した」、「豆炭、練炭の灰の不始末で発火した」、「ヒーター部分が落下して焦げた」、「ヒーター管が破損した」

なお、死亡・重傷事故は、全て「製品に起因しない事故」か「原因不明のもの」でした。

(5) 「製品に起因する事故」について

「製品に起因する事故」（「専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの」、「製品自体に問題があり、使い方も事故発生に影響したと考えられるもの」及び「製造後長期間経過したり、長期間の使用により性能が劣化したと考えられるもの」）は、重大製品事故4件を含め、179件中42件（23%）ありました。

これらを品目別にみると、「こたつ用コード」25件、「電気こたつ」16件などでした。

42件のうち社告・リコールが実施されたものは、20件（48%）ありました。

## 2. 事故事例の概要について

「こたつ」による事故のうち、「製品に起因しない事故」の代表的な事例を次に示します。

(1) ヒーター一部分に可燃物が近接したことにより焦げた、発火した

① 掛けぶとんをこたつ内部へ押し込んだ事例

（事故内容）

電気こたつを使用していたところ、掛けぶとんの一部が焼損した。

平成19年12月12日（大阪府、年代不明・男性、拡大被害）

（事故原因）

こたつの電気部品には異常は認められず、掛けぶとんがこたつ内部へと押し込まれたため、ヒーターユニットカバーと接触・蓄熱し、ふとんが焦げたものと推定される。

なお、取扱説明書及び本体表示には、「ふとんをやぐらの中に押し込んで使用しない（火災の原因になる）」旨、記載されている。

② 衣類をこたつの中に入れて乾燥させていた事例

（事故内容）

民家から出火して全焼し、家人1名が死亡した。

平成17年4月9日（山形県、80歳以上・男性、死亡）

（事故原因）

電気こたつの中に衣類を入れて乾燥させていたところ、ヒーターユニットカバーに衣類が接触して着火し、出火したものと推定される。

(2) 屈曲、荷重などの負荷でコードがショートし発火した

（事故内容）

木造2階建て住宅から出火し、隣家との2棟を全焼した。

平成20年11月2日（山形県、60歳代・男性、拡大被害）

（事故原因）

電源コードに溶融痕が認められることから、家具等による踏みつけによってコードが機械的ストレスを受けたため、半断線状態となり、短絡・スパークし、火災に至ったものと推定される。

(3) 故障のまま使用したことによりヒーターが過熱し発火した

(事故内容)

住宅から出火し、全焼した。

平成19年12月17日（長野県、60歳代・男性、拡大被害）

(事故原因)

豆炭を入れる燃焼器具内の不燃わた（断熱材）が使用によって劣化して断熱効果を失っていたため、豆炭からの熱によってかぶせてあったふとんが過熱され、火災に至ったものと推定される。

(4) 豆炭、練炭の灰の不始末で発火した

(事故内容)

木造平屋住宅から出火して全焼し、家人2人が死亡した。

平成18年1月23日（福島県、70歳代・男性、死亡）

(事故原因)

練炭こたつの取り灰の不始末により、周辺の可燃物に燃え移り、火災に至ったものと推定される。

### 3. 「こたつ」による事故の防止について

「こたつ」の誤った使用や不注意による事故が多く発生しています。

こたつ布団や衣類などの可燃物をこたつの中に入れ、ヒーター部分（ヒーターユニット）カバーに近接したままにすると、可燃物が過熱され発火するおそれがあります。また、電気こたつの電源コードがこたつの脚に踏まれたまま使用すると、コードが半断線状態になり、スパークして出火することがあります。

事故を未然に防ぐため、製品に添付された取扱説明書や器具本体に表示された注意事項をよく読んで正しく使用してください。特に、以下の事項にご注意ください。

#### (1) 電気こたつ

- ① 電気こたつの中で衣類を乾かさないでください。
- ② 座いすや座ぶとん、上掛けなどが電気こたつ内のヒーターユニットカバーに近接しないように気をつけてください。
- ③ 電気こたつの電源コードをこたつの下敷きになった状態で使用しないでください。
- ④ 電気こたつの電源コードを折り曲げたり、ねじったりしない。
- ⑤ 電気こたつを改造したり、修理をしないでください。電気こたつのヒーターユニット等を改造・修理して使用しないでください。
- ⑥ 外出などで留守にする場合は、電気こたつの電源を切り、電源プラグを抜いてください。

## (2) 豆炭こたつ、練炭こたつ、木炭こたつ

- ① 一酸化炭素中毒に注意してください。閉め切ったところで長く使用すると、一酸化炭素中毒になることがあります。決してこたつには潜らないでください。部屋の換気をしてください。
- ② こたつの中に衣類等を入れたり、こたつ布団を押し込まないでください。
- ③ こたつの火は、使わないときには外へ出すか、温度調節レバーを閉じ布団の裾を開けてください。灰を捨てるときは、完全に火が消えていることを確認してください。

### 「こたつ」のチェックポイント

以下の事項に1つでも当てはまったら、使用を中止し、メーカー又は販売店に相談してください。

#### (1) 電気こたつ

- ① 電気こたつが焦げ臭いにおいがする
- ② 電気こたつの電源コードの取付部や電源コード、電源プラグに傷、ふくれがある
- ③ 電気こたつの電源コードに触れたり、折り曲げると電源が入ったり、切れたりする
- ④ 電気こたつの電源コードの一部や電源プラグ、本体のスイッチがいつもより熱い

#### (2) 豆炭こたつ

- ① 豆炭こたつの燃焼器具内の不燃わた（断熱材）が、破損したり劣化していたりする
- ② 豆炭こたつの燃焼器具の留め金、ヒンジや温度調節部品が傷んでいる

以上